

『花を訪ねて： 秋の七草』

## 長瀨七草寺散策 (平成 30 年 9 月 14 日 (金))

9月の例会で、伊藤さんから提案された「秩父・長瀨七草寺」散策を、小生がリーダーとなって実行することになった。例会の当日、荻野さん、早坂さんが参加を表明された。後日、例会に出席ならなかった方にもご案内したが、他に参加される方はおられなかった。とにかく秋の長雨の季節なので、天気が心配だったので、数日前から「ウェザーニュース」で秩父地方の天候を調べた。前日の予報では、「午前中、小雨、午後曇り」だったが、街中であり、雨に濡れた花々もよいだろうと、決行することにした。ちなみに秋の七草は「萩、尾花（ススキ）、葛、撫子、女郎花、藤袴、桔梗」。

当日は予報通り朝小雨が降っていて、傘を差して出掛けることになった。7時45分頃、電車のホームに上がって行くと、まだ現れていない筈の早坂さんが待っていた。一台早い電車に乗られたようだ。一方、いつも早めに来る筈の荻野さんの姿が見えない。発車時刻（7時57分）の5分前に荻野さんにメールすると「今電車の中」とのこと。早坂さんと、「エエー、まさか山手線の電車の中！そんな筈はない。予定の電車の前の方に乗っているのでしょうか。」と言って、とにかく目の前の予定の電車に乗った。「乗換駅で待っている。」との連絡。てっきり「飯能駅」と思いきや、なんと「寄居駅」だと言う。やっと分かりました。荻野さんは、小生からの最終計画書は見ておらず、頭初の2つの計画書のうちの他の方を見ていたのです。寄居駅で待っていたのでは、今回我々の最終目的地になってしまう。それで、至急連絡、「寄居駅から秩父鉄道線に乗って、長瀨駅で降りて待って下さい」と。西武秩父駅と寄居駅からでは、長瀨駅は丁度中間位に位置するので、同じ頃に着くだろう。やれやれ。

西武線のあちこちに「巾着田の彼岸花祭り」（9月15日～9月24日）の案内ポスターが貼ってあった。（少し食指が動く。）我々は無事飯能で乗り換えて、西武秩父駅に到着。乗換で外に出ると、もう雨は止んでいた。ラッキー。急いで秩父鉄道「御花畑駅」へ歩く。少し急いで歩かなければならない位に、うまく接続している。秩父鉄道はいまだ「スイカ、パスモ」は利用できなかった。長瀨駅へ着くと荻野さんは既に到着していた。それで涙の再会？となった。

改札口を出ると木の下でテーブルで、地元のおじさん達が案内図を渡して案内をしている。何故か「自宅を出発した線名、駅名」を書いてほしいと。このデータはどのように役立つのだろうか。10時20分出発する。

平日（金曜日）なので、人は少ない。まずは「撫子」の不動寺へ向かう。宝登山へ向かって真っすぐ進む。宝登山神社手前を左側に回り込んで坂を登り、ロープウェイ駅の脇を左へ入って行くと不動寺があった。撫子の花は既に盛りを過ぎていて、草臥れた（半分枯れた）花が多かった。やはり「長瀨七草寺探訪」と思われる人々がいて、“女郎花”は何と読むんだ？とやっていた。実はこの寺のあまり広くない前庭に、「長瀨七草寺」の名前のある札と共に「七草」が植えられていて、時間のない人はそのままお帰りでもよいように、全部の花が見ることができるのだ。

不動寺から坂を下り、一旦長瀨駅へ戻る。ここで「長瀨岩畳」へ向ってもよいが、我々は七草寺が

目的なのでパスする。立派な櫻並木の道（春の櫻時期は見事だろうな）を歩み、次の真性寺へ向かう。

真性寺は「女郎花」だ。お寺の前の広い畑に黄色と白色の女郎花が咲き乱れている。素晴らしい。また、前庭には、女郎花の他に彼岸花、秋明菊なども咲いている。11時30分になったので、本堂前のベンチをお借りして、暫時休憩、水分補給と軽昼食とした。どこかお店があれば入る予定であったが、結局これが本昼食になってしまった。前の不動寺あたりで見かけた2人連れのおばさんや若い本格カメラを持ったお嬢さんなどとう会う。

次の目的地は「藤袴」の法善寺。「金石水管橋」という水道管を川向うから引いてくる橋を渡る。水面まで高さ約10mで、かなり高く見える。人と自転車のみ通行可。橋上から上流側を眺めると「長瀬川下り」の舟が2艘見えた。今日は涼しいのと思うが、楽しんでいる人々もいるんだ。少し斜面を登って、法善寺に着く。初めて知ったが、藤袴には背の低いや高い種類があった。色は紫色と白色の他に暗紫色の花もある。この寺の枝垂れ桜は有名らしいが、木はかなり傷んでいて、一番太い幹は既に枯れていた。

もう一度長瀬を「高砂橋」で渡る。橋から下流を眺めるとすぐ近くに、船下りの終点があり、丁度舟をトレーラーに積み込んでいた。舟も上りは車に乗るのだ。天竜川でも同じだった。

次は「桔梗」の多宝寺。寺の前の畑に紫色の桔梗が植えられていたが、もう盛りを過ぎていた。本堂前のベンチに座り休憩、水分補給。ここでも他の寺で会った人達と“再会”して挨拶する。

今度は線路の向う側、山の斜面中腹に建つ「萩」の洞昌院へ向かう。途中畠の中に大きくなり過ぎて30~40kgはあろうかというカボチャが放置されていたが、これは傷だらけでハロウィーンにも使えないだろうな。洞昌院の広い前畑には白、桃色の萩の花が咲き乱れていた。また本堂へ登ってゆく階段には萩のトンネルができていた。ここの萩も立派。本堂にお札、お守りなどの他に野菜なども並べて、おばあさんが店番をしていたが、暑いので気の毒にうちわを忙しく動かしていた。ここでもベンチを借りて、休憩・水分補給。「裏山には萩1万本、是非見てください」と案内があったが、遠慮させていただいた。ここで会った6~7人の高齢の女性連は、元気に次の遍照寺（葛）へ向かって行ったが、我々は協議の結果、もう十分歩いたので、次の遍照寺はパスして、野上駅に戻ることにした。

14時20分に野上駅に到着したら、丁度14時33分の電車があったので、寄居へ向かう。あとは順調に乗り継ぎ、車内解散とした。

うまい具合に雨に遭わず、今日の「長瀬七草寺散策」は良かった。特に、女郎花、藤袴、萩の寺がよかった。行きの時の待ち合わせの経験は今後に生かせばよい。

以上 陽田

附記) ついでに「春の七草」も記載します。: 「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ 春の七草」